



花田 鳩子  
くらゆりこ・絵

大きなトサカのおんどりのコッコには 家が ありません。

だから のらこっこです。

のらこっこは、朝いちばんに おきて「ケケッコ〜」

と なき、東の空を むいて パタパタと はばたきます。

けれど「にわとり」なので、空を とべません。

のらこっこは、頭に つけた まっ赤な 王さまのかん

むりが なによりも じまんです。

けれど「のら」なので、けらいは ひとりも いません。

ある朝のこと。

のらこっこは 海を みおろす おかの上の、大きなシ

イの木の下で、目を さましました。

いつものように、「ケケッコ〜」と ないたけれど、

いまひとつ おなかから 力が ぬけてしまいます。

「はらが へったな〜」

ねっこのまわりの じめんを けちらしても、木のみに

ひとつぶ、ミミズ いっぴき できません。

のらは、じぶんの食べるものは、じぶんで さがさなければ

ならないのです。

「そうだ、みなとのこうえんに いこう」

朝のこうえんの ベンチの下は 食べものが いっぱい。

おべんとうの こぼれたのか おかしのかけらなど、

メニューいろいろの みなとレストランになります。